



はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成

響かせよう 響き合おう ～今に響け 未来に響け～

時津町立時津東小学校 学校だより 第 2 号

令和 5 年 5 月 3 1 日 文責：校長 村井 宏之

一致団結 仲間を信じて心を一つに



五月二十一日(日)、青空の下、「一致団結」仲間を信じて心を一つに「をテーマに運動会を実施しました。三年ぶりに制限のない運動会になるはずでしたが、直前になりインフルエンザが流行りだし、応援合戦の方法を変更したり、会場設営を見直したりしました。また、待機中はマスクを着用させなければならず、制限なしの運動会とはなりませんでした。また、欠席も多かったため、競技も調整する必要がありました。しかし、このような中でも、東っ子たちは力を出し切り、立派な運動会を披露してくれました。改めて、東小の子供たち、職員力の高さを感じました。

制限はありましたが、子供たちの歓声や応援の音が響く運動会はいいものです。子供たちの頑張る顔、楽しそうな顔、三年間忘れていた学校の当たり前が帰ってきました。各学年二競技ずつしかお見せできませんでしたが、子供たちは自分たちの出番に全力で取り組み盛り上げてくれました。一年生のダンス「ジャンボリいちねん！」。とってもかわいいノリノリダンスは、見ている人に元気をくれました。二年生はインフルエンザで参加できないお友達の分まで一生懸命に走りまわりました。また、今週の月曜日に学年運動会を実施しました。三年生のワープリレーは最後まで接戦

でした。欠席があり走順が急に変更になったにもかかわらず、最後までバトンをつなぎました。さすが三年生です。四年生は「綱引き」。力の入った競技で、運動会を盛り上げました。

五年生は学級対抗リレーで競いました。学級全員が勝利を目指して全力で走り切りました。高学年らしいバトンパスができました。

そして、東小伝統六年生の「よさこい」です。今年はずいぶん長崎大学の「突風」にご指導いただき本番を迎えました。笑顔、元気な声、東小の最高学年にふさわしい生き生きとした演技でした。

応援団もよく頑張りました。各色、工夫のある、迫力のある応援でした。この運動会を通して六年生がリーダーとして一歩成長できたと感じます。

みんなで運動会を作り上げる経験は、学級、学年、学校のまとまりを強くし、子供たちに勉強にはない貴重な学びの機会となりました。今後の東っ子の活躍、成長が楽しみです。

はなまるさん

「響かせよう 響き合おう」を合言葉に、子供たちの声が響く学校づくりを目指して取り組んでいます。その一つとして、挨拶を頑張ってきました。この一年で少しずつ定着し、見守り隊の方々からお褒めの言葉をいただけるようになりました。

毎日の給食の放送で、「あいさつはなまるさん」として、しっかりと挨拶ができる子供たちを紹介しています。また、挨拶だけでなく、子供たちの善い行いを「はなまるさん」として紹介しています。子供たちが認められることで、ますます伸びていくことを願っています。

東っ子の心を見つめる教育週間

六月十七日(土)～二十三日(金)を「東っ子の心を見つめる教育週間」として、終日、学校を公開します。初日を土曜授業とし、全学年で授業参観と懇談会、低中高に分かれての平和に関する講話を行う予定です。授業参観は、「生命尊重」についての道徳の授業とし、保護者の皆様と共に考える機会にしていきたいと思っています。

平日にはお越しいただけない保護者の皆様、地域の皆様、ぜひこの機会にお越しいただき、子供たちの様子を見ていただければと思います。また、十七日だけでなく教育週間中は終日、学校を公開しています。多くの皆様のご来校をお待ちしています。

子どもへのメッセージ(地域で育む子ども像)

「地域の宝!!!」

「夢・志を抱き、がんばる東っ子」は、

- 一 「5つのしおり」を守って生活します。
- 二 相手を思いやり、感謝の気持ちを大切にします。
- 三 地域に関心をもち、ふるさと「時津」を大切にします。
- 四 自分の気持ちや考えを、自分の言葉で相手に丁寧に伝えます。
- 五 自分で決めたことは、責任をもって粘り強く取り組みます。

時津東小学校学校支援会議

※「子どもへのメッセージ」は昨年度、学校支援会議で話し合い作ったものです。地域でのメッセージを共有し、同じ方向性をもって東っ子を育てていきましょう。

特別支援教育だより

めぼえ

～特別支援教育が特別ではなくなる日を目指して～

令和5年5月31日
時津町立時津東小学校
特別支援教育コーディネーター
文責 若杉 聡
第1号

特別支援教育って何？

「特別支援教育」とは学校の生活や毎日の勉強で困っている子ども（障害の有無に関わらず）に対して、その子どもに合った適切な指導・支援を行うことで、必要な力を高める教育のことです。また、その子の価値を高める教育ともいえます。

今から16年前の平成19年、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられました。この年は特別支援教育元年と呼ばれ、全ての学校における支援をさらに充実していくこととなりました。2022年の文部科学省によると、小・中学校の通常学級におよそ8.8%、11人に一人程度、「勉強がわからない」「友達となかなかうまくいかない」「ルールが守れない」など、学習や生活面で、支援が必要と思われる児童・生徒が在籍していることが分かりました。

本校では、校内支援委員会を中心に全職員で支援を進めていく体制を取っています。具体的には、児童のことで気になることがあったら、担任や職員、保護者の要請を受けて校長・教頭・担任・特別支援教育コーディネーター等が集まり、必要な支援を話し合ったり、必要なときは外部機関とも連携したりしながら協議していきます。お子さんのことで気になることがあれば、上記の担当者に限らず、相談しやすい職員にご相談ください。

特別支援NEWS

～スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーについて～

今年度、毎週水曜日の午前中（9:30～12:30）に『スクールカウンセラー』が来校することとなりました。スクールカウンセラーは、専門的な知識・経験をもって、児童が抱える心の問題に適切に対応するためカウンセリングなどの支援を行います。また、必要ならば保護者、教職員にもアドバイスや支援を行います。

またこの他に、時津町には、『スクールソーシャルワーカー』が週1回水曜日に配置されています。こちらは、児童生徒に影響を及ぼしている家庭・学校・地域環境の改善に向けて、学校・家庭・地域の支援ネットワークを築く福祉の専門家です。相談されたいことがありましたら担任、コーディネーターに連絡ください。

よろしくお願ひします

本年度も指導教諭として本校に勤務します若杉 聡です。特別支援教育コーディネーターも兼務いたします。お子さんのことで気になることがあれば、校長、教頭、担任、コーディネーターなど相談しやすい職員にご相談ください。

